

変わりゆくミッションのかたち

(2007年から2021年までの歩み)

2007

- 創立二十五周年を迎え、六年ぶりに第二回レイミッションナリーミーティングを開催。カンボジア、タイ、東ティモールから七名参加。
- カンボジアスタディツアーの参加者が百名を超え、参加者の集い「Cambodia Day」開催。以降、毎年実施。
- プノンペン「プテアコマ・トイトイ」開設。
- プノンペン「フェリシモ地球の村基金」により「屋台貸し出しプロジェクト」開始。
- 水上村では通学船運営開始。水浄化プロジェクト開始。
- シエムリアップ州クナ・トゥメイ「子どもセンター」にて識字教室などの活動支援を開始。



第2回レイミッションナリー会議

2008

- 七月より、バンティメエンチャイ州オム村「子どもセンター」にて識字教室などの活動支援を開始。
- チエンマイ（タイ）ルワ族の女性のハンディクラフト支援「パラン・チャイ・プーイン」の立ち上げと販売支援
- スタディツアーをカンボジアとタイで八回実施。
- カンボジアスタディツアーの現地ドライバー兼ツアーコーディネーターのヴッタさん来日。各地で交流会を開催。
- 名古屋・東京・横浜・新潟の四教区においてチャリティコンサートを実施。

2009

- プノンペン ステンミンエンチャイごみ集積場が七月に閉鎖となったが、JLMMは活動を継続。
- 水上村 無料診療プログラムを開始。妊婦や乳幼児の健康チェック。
- 水上村 識字教室の成果が上がり、過去最多の四十一名の児童が公立小学校へ進学。また、公立小学校の修復や図書館設置など地域行政との連携事業を進めた。
- シエムリップ NPO法人レナセルが運営する女性シエルターでの活動を開始（八月）。DV被害者への支援など。
- チエンマイ 九月に派遣先がDISAC（教区社会活動センター）からRTRC（Research and Training center for Religio-Cultural Community）に変更され、少数民族の様々な支援活動に参加する。
- 東ティモール 地域の保健プログラムSISCaでの保健ボランティア養成が七月に開始。コミュニティグループの活動が成果を上げ、年間九千七百個の石鹸を生産・販売した。
- 東ティモール CLTS（コミュニティ主導の全村環境衛生活動）を開始、村のトイレ使用率が三%から六十七%へと飛躍的に伸びた。
- AFMET設立十周年。式典には住民三百名が参加。
- 毎月の平日企画「午後のバラエティータイム」を実施。
- 特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）の正会員となる。（十月二十三日承認）



CLTSセミナーで賞品を渡す渡邊怜子

2010

- プノンペン 初めての住民参加型評価を実施、「コミュニティにおける女性の役割の重要性を認識。
- 水上村 NPO法人「芝の会」の支援で水上公園を設置。子どもためのみならず、地域の冠婚葬祭の場として活用される。
- チエンマー 派遣者の帰国により、活動を一時終了
- 信徒・非信徒問わず、短期での派遣を可能にする「フェローズ派遣」を実施。二〇一一年二月にボランティアをシエムリアップに二週間派遣した。
- 札幌・東京・名古屋・大阪・長崎の五教区にて活動報告と募集説明会を実施。
- 新規に「夏休みボランティアDAY」、「カンボジア映画上映会」を企画、多数の参加者があった。
- MDGs（国連ミレニアム開発目標）キャンペーンに参加。
- 第二回「コスベルコンサート開催（築地教会）。
- 事務局の辻明がカリタスシヤパンに援助部会委員として参加（二〇一五年まで三年二期、二〇一九年に再選）

2011

- プノンペン 女性の生活向上プログラム開始。「母親センター」の建設に着手。
- プノンペン 秋田県の企業「進藤冷菓」の技術協力で屋台プロジェクトの新規アイス販売の準備・企画。
- 水上村 水上教会で幼稚園開設。開設協力と教材支援。
- 東ティモール AFMETにおいてJICA草の根技術協力事業「みんな『サウダベル』健康村プロジェクト」開始（二〇一三年二月まで）。モタラ村でのトイレ使用率九十二%を達成。
- モンゴルに二名のミッシヨナリーを派遣。モンゴル語学習や住居の準備。
- 長期海外研修はフィリピンへ。
- JANIC「アカウントビリティチェック2008」を実施



進藤社長の現地アイス開発

○三月十一日に東日本大震災が発災、JLMM事務局では三月十八日に仙台入りし、「仙台教区サポートセンター」と被災地支援ベース開設に協力。東京教区からの業務委託を受け、四月にCTVC（カトリック東京ボランティアセンター）を開設、二〇一一年三月まで被災地支援に関わる。

2012

○JLMM創立三十周年にあたり、次の三点を重点事業として展開。

- ① 一般社団法人としての事業展開（三月）。
- ② 新規派遣地での活動展開

首都ウランバートル、オボルハンガイ県アルバイヘールの二箇所での活動を開始。現地の教会、修道会に協力し貧困層住民、特に子どもや女性を対象とした支援プログラムに参画。

- ③ カンボジア・ステンミンチャイ地区における収入創出プログラムの新規事業の展開。「母親センター」が竣工（二〇一二年九月）し、あわせて収入創出プログラムとして「ハッピーアイス」の生産と販売を開始した。

○プノンペン 味の素「食と健康」国際協力支援プログラム「プノンペン市貧困地区の母親エンパワメントによる家庭の栄養改善」（二〇一二年四月～二〇一五年三月）を実施。

- ① 「総合的な生活改善セミナー」の一環として栄養プログラムを実施（対象地域を三ブロックに分けて実施）

- ② 入手可能な食材を使った栄養価の高い食事の考案と調理実演指導
- ③ 併設のプレスクール「プテア・コマ」における児童への給食の提供

○第三回レイミッシヨナリー会議を開催。十一月十日～十五日 タイ国・パタヤ市、レデンプトリセンターにて。初代派遣者を会議に迎え、基調講演を行ったほか、参加者全員でJLMMの「宣教」の意味やあり方について分かち合い、共有した。



モンゴル派遣

2013

- プノンペン「母親センター」開所（二月に開所式）
- プノンペン「ハッピーアイストラック」を購入するにあたり、クラウドファンディングを活用し購入資金を得た。
- 東ティモール JICA章の根技術協力事業が二月末に終了。九月に活動拠点が火災で全焼したために、拠点をロスバロス市内へ移転。
- 東ティモール NGO「HIVOS」と連携し、「衛生的なかまどの普及」事業を実施。女性グループが生産したかまどはマヒナイ村及びコム村に五十六基設置。
- 東ティモール JICA事業中にAFMETにより組織された地域グループのFINIは、AFMETから独立し、東ティモール政府への現地NGO登録を完了。
- 二〇一一年三月の東日本大震災以来休止していたカンボジアスタディーツアー（八月）や、グローバルフェスタJAPAN出展（十月）、Cambodia Day開催（十一月）を再開。
- JLMMコスベルコンサート 東日本大震災被災地支援として、南相馬市などでコンサートを行った（六月、十二月）
- 研修 JOCs（公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会）の派遣候補者を受け入れ、豊かな研修となり、団体間の連携を深めた。
- 新たな顧問司教として諏訪榮治郎高松教区司教が就任した。



ハッピーアイストラック

2014

- プノンペン 味の素株式会社「食と健康」国際協力支援プログラムとして実施している栄養改善セミナーが最終年度となり、「ごはん祭り」の開催や栄養に関する冊子「楽しいごはん」の制作・配布など、三年間の学びの成果をまとめた。
- 水上村 陸で生活するようになったり、ベトナムに帰るなど水上村を離れていく青年が増え始める。
- モンゴル 受け入れ団体の査証手続きの関係により、アルバイヘル派遣者が二月にウランバートルへ活動の拠点を移動。十月と十二月に派遣者たちが帰国したことによって、モンゴルへの派遣は一旦休止となった。
- スタディーツアーの新たな試みとして「巡礼ツアー」を企画し、巡礼地や教会訪問を中心に、年配の方々が参加しやすいプログラムとして実施し好評であった。
- コスベルグループはカリタスジャパンの「半貧困キャンペーンアクションデー」に参加。日本語版キャンペーンソングを歌った。
- ニュースレター「ミッション」が百六十号から全ページフルカラーとなり、誌面が格段に読みやすくなった。
- 代表理事として小林誠（前副代表理事）が選任される。
- BOOG会が開催された。（第四回：五月、第六回：二〇一五年三月）

2015

- プノンペン 味の素株式会社「食と健康」国際協力支援プログラムの継続案件として「プノンペン市貧困地域におけるコミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」を四月より三年間の計画で開始。
- 東ティモール 味の素「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、対象地域の母親に栄養失調児減少を目的とした「栄養と食に関する知識向上プログラム」を実施。
- 上智福岡高等学校より、高校二年生向けのスタディーツアーの企画依頼があり、以降毎年実施（二〇二〇年よりコロナ禍に



東ティモール派遣

より休止中)
○ 国際協力NGOセンターによる「アカウンタビリティセルフチェック2012」を三月に実施、これを機に就業規則など諸規定を整備した。

2016

- プノンペン 栄養改善のトレーニングを修了した十八名のコミュニティヘルスワーカー（村の保健ボランティア）が誕生
- プノンペン 母親センターにと図書室を設置
- プノンペン コミュニティヘルスワーカーのインセンティブとなり、地域の栄養改善に貢献できる作物を開発すべく、母親センター屋上に野菜菜園を試験的に設置。
- シェムリアップ 派遣者が契約終了し七月下旬に帰国したため、シェムリアップ派遣は一時休止。
- 九月、「カンボジアデー」を主催。
- JLMMの活動広報の拡充を目指し、全国各地のカトリック教会で「ミニ報告会とミチャナ販売」を企画・実施した。（三教区の五教会）
- 四月十四日から相次いで発生した熊本震災に際し、カリタスジャパンから要請を受け、事務局の漆原と辻が五月に二回に分けて被災地において支援活動立ち上げに協力した。主に現地のボランティア活動拠点「カリタス福岡熊本支援センター」の開設協力にあたった。



コミュニティヘルスワーカー

2017

- プノンペン 味の素ファンデーションの助成による3年間の「プノンペン市貧困地域におけるコミュニティヘルスワーカー（CHW）の養成と家庭の栄養改善」の最終年度となり、プロジェクトの評価を参加型手法で実施した。
- プノンペン コミュニティヘルスワーカーの意欲向上と収入創出のために、新たにコーヒードリッパーパックの生産に着手し、商品開発とマーケティングに進展が見られた。また、母親のニーズに対応するため、託児所の増築を開始した。
- 東ティモール 味の素ファンデーションの助成を受け、対象地域の母親に栄養失調児減少を目的とした「栄養と食に関する知識向上プログラム」が三年間のプロジェクトの最終年度となり、活動評価を実施した。



ハッピーアイス

- 研修を実施し、二〇一三年度以来四年ぶりの派遣が実現した。
- 二〇〇三年から研修所として使用していたコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会調布修道院の改修に伴い調布研修所を閉鎖し、礼拝会喜多見修道院内に新たに喜多見研修所を設置した。二〇一八年度より使用。
- 「日本カトリック信徒宣教師会」という団体名について再検討することが理事会で提案され、OBOGSなどによって組織する「JLMM団体名称検討ワーキンググループ」が一月より定期的に開催され、団体名称についての検討を進めた。（従来の団体名称「一般社団法人 日本カトリック信徒宣教師会」に含まれる「カトリック」や「宣教」という用語が、時に宗教活動や「布教」そのものを目的とする団体と誤解される要因となり、連携するNGOや管轄省庁との関係に影響が出た。そこで、実際の組織・活動について明確に表現できる名称を検討することとした。）
- カリタスジャパンから協力要請を受け、今後起こりうる大災害発災時に、カトリック教会が被災者支援システムを迅速に構築できるよう、一月より支援マニュアル作成作業に参加。

2018

- プノンペン教区、プノンペンセントウマイリトリートセンターにて全派遣者と事務局スタッフによる第四回レイミッシュヨナリー会議を開催。
- 喜多見の新研修所にて研修を開始した。
- 研修では、初の試みとして一部の講義を一般公開とし、多くの方々とともに学べる機会を提供した。

2019

- プノンペン 二月に増築が完了した新託児所において、乳幼児の受け入れ数を増やした。二歳児クラスがスタート。一階には室内遊具を設置した。
- 東ティモールでは一九九九年より継続してきた派遣が二〇一九年三月末に終了した。
- 水上村 派遣者が七月末に活動を終了した。派遣者が担当していた業務については、バタンバン教区が引き継ぐことになった。
- プノンペンのコミュニティヘルスワーカーの意欲向上と収入創出のために生産しているコーヒードリップパックの輸入手続きができるようになり、日本国内での販売が実現した。
- ドキュメンタリー映画を通して世界の状況について学び、支援者の輪を広げるため、四月から毎月の映画会「シネマ★ミシオ」を開催。

2020

- プノンペン 二月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻となり、三月中旬からの公立学校の休校措置に伴い、JLMMカンボジアの「子どもの家」など全ての活動を休止した。
- 代表の浅野美幸が三月三十一日に緊急帰国、続いて四月五日に洞江有実子が緊急帰国し、海外のすべての派遣が休止状態となった。
- 四月十六日、カンボジアの現地スタッフとZoom接続し、月二回程度の定期的なオンラインスタッフ会議を開始。
- プノンペン 十月、カンボジア現地スタッフがコロナ禍における生活困窮者百六十五世帯に向けた「食糧パック」の配布を開始。一年間毎月実施する。
- 研修が一年間延期となった。
- シネマ★ミシオは三月の最終回を中止し、春に予定していた三回のカンボジアスタディツアーを中止した。
- YouTube企画、「JLMMトモニキル★チャンネル」配信開始。カンボジア、スペイン、イタリア、アメリカ、カナダ各国のJLMM派遣者やスタッフのBOOGとオンラインインタビュー（全五回）を配信。九月からカンボジアの塩漬胡椒を紹介するレシビ動画「U子のコショウがいいでSHOW?」をシリーズで四回配信。十月にはカンボジアの現地スタッフからの情報を構成し、コロナ禍の生活困窮者支援を呼びかける「STMニュース」を配信。
- 東京教区によるコロナ状況下の支援活動に協力し、四月より毎週、「東京教区災害対応チーム」のオンライン会議に参加、支援活動の案内や広報、オンラインパネルディスカッションをシリーズで実施した。
- 七月よりカリタスジャパンに制作協力した「災害対応マニュアル」の教区災害担当者向けのオンライントレーニングを準備、十月に高松教区から開始、札幌、新潟、名古屋の各教区で実施した。
- 十月には災害時のERREST（緊急対応支援チーム）が組織され、オンラインワークショップを開始。



食糧支援パック作り



水上村の住民ミーティング



ドリップパックコーヒーの生産



カンボジアデー



ごはん祭りで配布した料理本



第三回レイミッションナリー会議

○一月より、カンボジア現地スタッフの能力向上トレーニングとして、オンラインエクセル教室を開始。
○三月、十年間に亘って東日本大震災被災地支援を行ってきたCTVCの活動を終了。
○四月六日、初のオンライン研修開始。

2021